

ショートデュレーション円インカムオープン (ラップ向け)

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2019年2月21日～2020年2月20日

第 3 期 決算日：2020年2月20日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、主として日本を含む先進国の債券等を実質的な主要投資対象として投資を行い、デュレーションを原則として0～3年程度の範囲とすることで、利子収益の確保および中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用することを目的としております。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第3期末 (2020年2月20日)

基準価額	10,015円
純資産総額	395百万円
騰落率	+1.1%
分配金合計 ^(*)	0円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

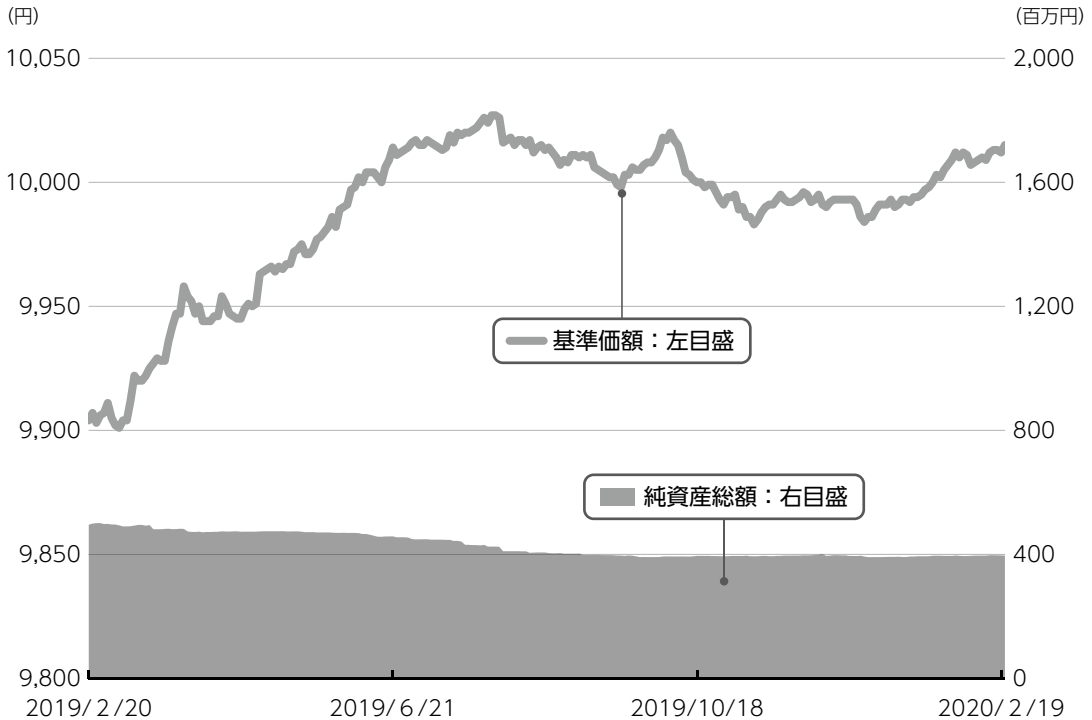
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第3期：2019年2月21日～2020年2月20日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第3期首	9,904円
第3期末	10,015円
既払分配金	0円
騰落率	1.1%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ1.1%の上昇となりました。

▶ 基準価額の主な変動要因

上昇要因

主に債券利息収入を享受したことや保有する債券の価格が上昇したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

主に保有する外貨建て資産に対し外貨売り・円買いの為替ヘッジを行ったことによりヘッジコストが生じたことなどが基準価額の下落要因となりました。

2019年2月21日～2020年2月20日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	27	0.272	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(18)	(0.185)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(5)	(0.054)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(3)	(0.033)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.002	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
（先物・オプション）	(0)	(0.002)	
(c) その他費用	2	0.025	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.021)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(0)	(0.004)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	29	0.299	

期中の平均基準価額は、9,988円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

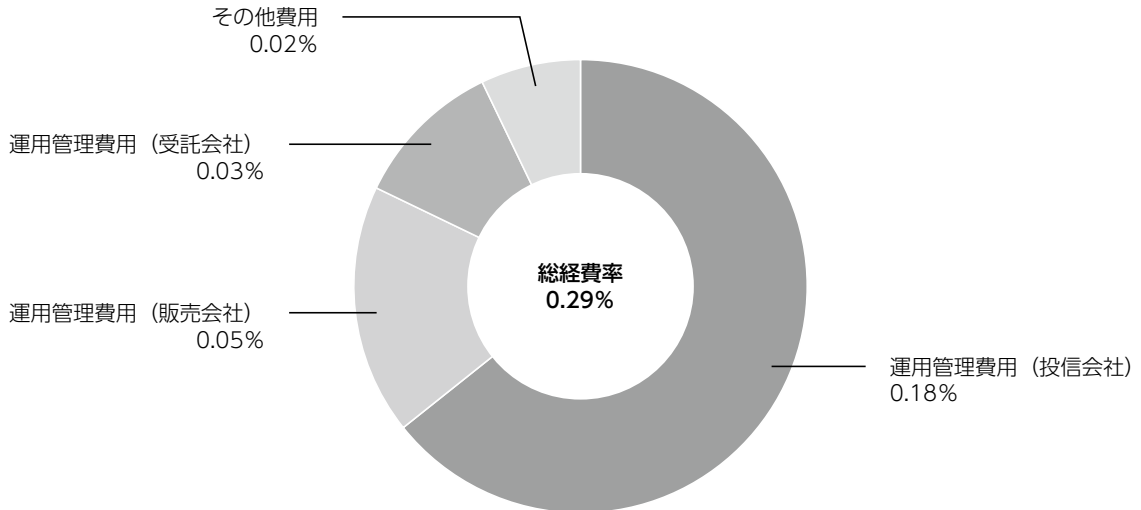
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.29%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2015年2月20日～2020年2月20日

最近5年間の基準価額等の推移について



最近5年間の年間騰落率

				2018/2/20 期初	2019/2/20 決算日	2020/2/20 決算日
基準価額	(円)	-	-	9,952	9,904	10,015
期間分配金合計（税込み）	(円)	-	-	-	0	0
基準価額騰落率	(%)	-	-	-	-0.5	1.1
純資産総額	(百万円)	-	-	3,969	495	395

※騰落率および期間分配金合計については、年間の値を表示しており、期間が1年に達していない場合には表示していません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境について

▶ 債券市況

主要国の短期金利は低下、社債スプレッドは縮小しました。

米国では、期首から2019年8月にかけて、米中通商問題を背景に世界景気の先行き不透明感が高まったことや、米連邦準備制度理事会（FRB）が利下げを実施したことなどから、米国短期金利は低下しました。9月上旬にはレポ金利が急騰し米国短期金利も一時上昇圧力にさらされたものの、その後は、FRBが資金供給姿勢を強めたことなどから市場は落ち着きを取り戻し、米国短期金利は安定的に推移しました。期末にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念が広がり投資家のリスクセンチメントが悪化したことなどから、米国短期金利は低下しました。結果として、期を通じてみると、米国短期金利は低下しました。

欧州では、期首から2019年8月にかけて、米中通商問題を背景に世界景気の先行き不透明感が高まったほか、欧州中央銀行（ECB）の追加緩和策への期待を織り込む格好で、ドイツの短期金利は低下しました。その後、ECBが追加緩和策の導入を決定し材料出尽くし感が広がったほか、英国の合意なき欧州連合（EU）離脱懸念が後退したことや、米中間の通商問題にて一部合意期待が高まったこと

などを背景に投資家のリスクセンチメントが改善したことなどから、ドイツの短期金利は低下幅を縮める格好となりました。結果として、期を通じてみると、ドイツの短期金利は低下しました。

豪州では、期首から2019年8月にかけて、豪州連邦準備銀行（RBA）がインフレ率や経済成長の低迷などを理由に利下げを実施したことなどを背景に、豪州短期金利は低下しました。その後、英国の合意なきEU離脱懸念の後退や、米中間通商問題が進展するとの期待などが金利上昇要因となる一方、新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念などが金利低下要因となり、豪州短期金利は低位でもみ合う展開となりました。結果として、期を通じてみると、豪州短期金利は低下しました。

グローバル社債市場では、米国や欧州、豪州の緩和的な金融政策などを背景に投資適格社債市場への資金流入が継続したほか、上記米中や欧州の政治リスク後退を背景に投資家のリスクセンチメントが改善したことなどがスプレッドの縮小要因となりました。また、証券化商品市場では、欧州カバードボンドのスプレッドは安定的に推移する中、豪州ガバードボンドは相対的な利回りが評価される格好で、スプレッドは縮小基調で推移しました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ ショートデュレーション円インカムオープン（ラップ向け）

当ファンドは、ショートデュレーション円インカムマザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち、実質的な運用はマザーファンドで行いました。

▶ ショートデュレーション円インカムマザーファンド

日本を含む先進国の債券等を主要投資対象として分散投資を行いました。債券等の組入比率は市況動向等に基づき調整しました。

デュレーション

主要国の短期金利の低下に伴い利益確定を実施したほか、ファンド全体に占める金利要因のリスク配分を見直す過程で、デュレーションを期中に短期化しました。その結果、デュレーションは期首に2.3程度でしたが、期末には1.2程度となりました。

通貨別配分（為替ヘッジ取引前）

金融政策の正常化観測が高まり、短期金利の低下余地が乏しくなったとの判断からスウェーデンクローナの比率を大幅に引き下げました。一方で、インフレ率や経済成長の低迷などを背景に政策金利の引き下げが予想され、且つ社債等のスプ

レッド水準が魅力的であるとの判断から、豪ドルの比率を引き上げました。

債券種別配分

ヘッジ後利回りを確保する観点から、期を通じて、社債の比率を高め維持する一方、ヘッジ後利回りがマイナスとなる銘柄が増加し投資魅力度が低下したとの判断から証券化商品（カバードボンド等）や政府機関債等の比率は引き下げ、現金の比率を増やしました。

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかりました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第3期
	2019年2月21日～2020年2月20日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	342

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

▶ ショートデュレーション円インカム オープン（ラップ向け）

ショートデュレーション円インカムマザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち、運用を行っていく方針です。

▶ ショートデュレーション円インカム マザーファンド

デュレーションや通貨別配分（為替ヘッジ取引前）につきましては、環境変化に柔軟に対処しながら、調整する方針です。債券種別構成につきましては、スプレッド水準や市場のボラティリティ変動要因を見極めながら必要に応じて組入比率を調整する方針です。

なお、組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

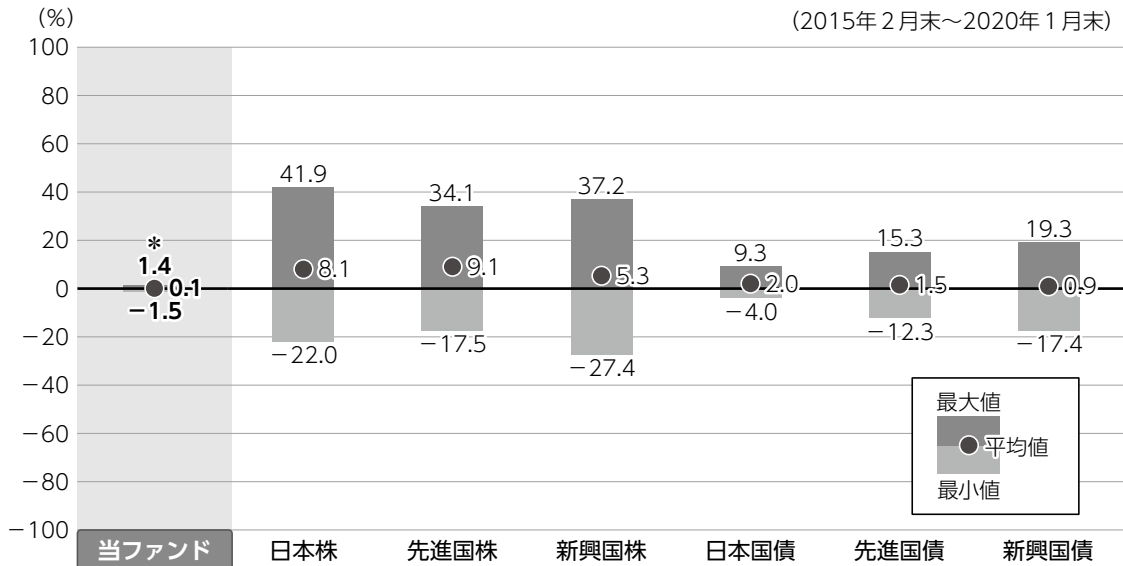
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
 なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufig.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2027年2月19日まで（2017年7月24日設定）
運用方針	<p>ショートデュレーション円インカムマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む先進国の債券等に投資を行います。</p> <p>マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。</p> <p>デュレーション調整等のため、先物取引等を利用する場合があります。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド ショートデュレーション円インカムマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。</p> <p>■ショートデュレーション円インカムマザーファンド 日本を含む先進国の債券等を主要投資対象とします。</p>
運用方法	日本を含む先進国の債券等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <p>（分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）</p>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年2月から2020年1月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

*ファンドについては2018年7月～2020年1月の同様の騰落率を表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2020年2月20日現在

▶ 当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	第3期末 2020年2月20日
ショートデュレーション円インカムマザーファンド	99.8%

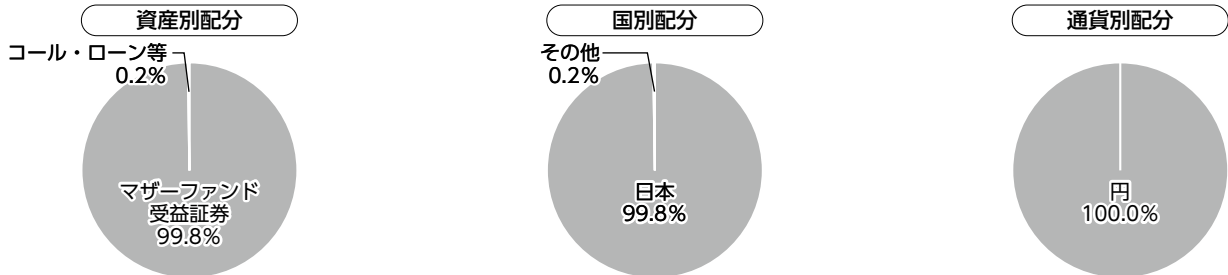
※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第3期末 2020年2月20日
純資産総額 (円)	395,807,727
受益権口数 (口)	395,228,998
1万口当たり基準価額 (円)	10,015

※当期中において追加設定元本は80,939,959円
同解約元本は186,346,679円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

291340

2020年2月20日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ショートデュレーション円インカムマザーファンド

基準価額の推移

2019年2月20日～2020年2月20日



1万口当たりの費用明細

2019年2月21日～2020年2月20日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	0	0.002
(b) その他費用 (保管費用)	2	0.020
(その他)	(0)	(0.000)
合計	2	0.022

期中の平均基準価額は、9,576円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：30銘柄)

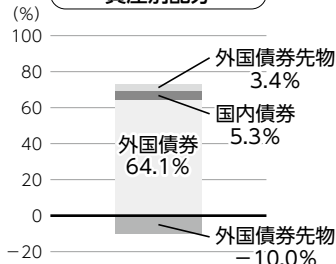
順位	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	0.2 LB BADEN-WUER 211213	債券	ドイツ	特殊債	5.3
2	2.1 VERIZON COMMU 260506	債券	アメリカ	社債	4.0
3	1.873 CENTRAL NIP 240926	債券	日本	社債	3.9
4	1.75 O.A.T 230525	債券	フランス	国債	3.9
5	第15回G E キャピタルコーポレーション	債券	日本	社債	3.5
6	3.45 AT&T INC 230919	債券	アメリカ	社債	3.5
7	1.5 KFW 240611	債券	ドイツ	特殊債	3.4
8	FRN MACQUARIE B 250305	債券	オーストラリア	社債	3.3
9	FRN GOLDMAN SACHS 231129	債券	アメリカ	社債	3.2
10	1.25 SWEDISH COVE 220615	債券	スウェーデン	社債	3.1

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

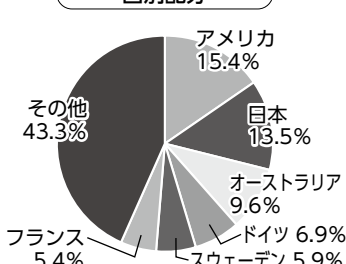
種別構成等

資産別配分



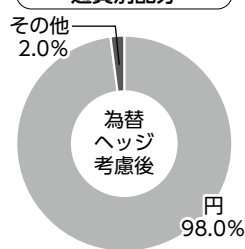
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

国別配分



※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含まず。

通貨別配分



指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信